

毎月の行事 予定	前月下旬に次月号発行。 (年間を通して計12回) 配布、掲示先 ・個人(手渡し・郵送) ・広場、大学内での掲示	会員及びボランティア	【方法】手渡しや郵送で配布を行っている。また広場や大学内の掲示板を利用したの掲示も行っている。 【内容】白黒刷りA3サイズの行事を盛り込んだカレンダー式行事予定の発行。行事予定の他には行事の詳しい内容、参加費について、広場からの簡単なお知らせ、HPアドレスの紹介、会員のお子さんの誕生日紹介などを盛り込んでいる。
ニュース レター	年に3～4回程度発行 ・2004年4月、12月 (年度内に更に1～2回発行予定) 配布場所(主に市内) ・子育て支援センター ・市役所 ・児童センター ・小児科 ・産婦人科 等	会員・ボランティア その他活動に関 心のある方	【方法】白黒刷りA3サイズのを手渡し、郵送等で対象者に配布している。また市の福祉課、保健課及び他の子育て支援サービス担当者の協力を頂きながら各施設での配布や市主催育児教室での配布を行っている。 【内容】各号共通内容…活動の様子、新しい事業(サービス)の紹介、スタッフインタビュー、利用案内(活動時間、会費、利用料、対象等) 4月号トピック…行事の紹介、ホームページの紹介、支援者・寄付者紹介等 12月号トピック…広場利用者の声(会員へのアンケート結果)、キャンプの報告、会員自主企画の紹介、全国実践交流セミナーの新聞記事等
公式ホーム ページの公 開	随時家庭や広場のパソコンから自由にアクセスして頂いている。 ・週に1回程度随時情報の更新を行なっている。	会員・ボランテ ィアを始めとす る全国の方々	【方法】家庭や広場のパソコンから気軽にアクセスできるホームページを公開し、随時情報を更新。 【内容】URL ( <a href="http://www1.quotia.com/k-kusun/">http://www1.quotia.com/k-kusun/</a> ) を参照のこと。 広場の紹介、行事予定、年間の活動の様子を写しまとめたフォトアルバム、スタッフ紹介、書き込み式掲示板、他の子育て支援HPへのリンク集等
メーリング リスト	随時 ・ボランティアの9割近くが登録。 ・会員の6～7割が登録	メーリングリス トへの登録に希 望した会員、ボ ランティア及び	【方法】ITを用いて広場からの情報を登録者へ一斉配信している。 【内容】 会員用…毎月の行事予定、行事の具体的なPR、広場の臨時閉所のお知らせ等 ボランティア用…毎月の行事予定、行事の具体的なPR、広場の臨時閉所、ボラ

・スタッフは全員登録	スタッフ。	ンテイアへの協力依頼等の配信。また返信メールでの問い合わせ、行事申し込み等についても受付けている。
------------	-------	---

5 実施結果・・・利用者等の感想（会員・ボランティア・役員・スタッフがアンケートに回答）及び実施担当者の感想

広報名	利用者の声	実施担当者の感想
活動紹介のペンフレット	<p>【内容】内容は分かりやすく、写真・イラスト等も見やすい。</p> <p>【大きさ】ちょうど良い</p> <p>【発行のタイミング】ちょうど良い</p>	<p>ペンフレット作成については写真を多く用いて見やすさ、親しみやすさに心がけた。大きさにについてはハンドライナーサイズではなかったので持ち帰りやすいサイズでも良いと感じる。また内容については広場以外の事業も紹介した（団体全体を紹介するものだった）ので少し分かりにくかったように感じる。次回は広場だけのペンフレットにして広場の様子が具体的に分かる見取り図や広場利用までの会員登録手続きの流れなども詳しく掲載しても良いのではないかと感じた。</p>
毎月の行事予定	<p>【内容】分かりやすい</p> <p>【大きさ】ちょうど良い</p> <p>【発行のタイミング】ちょうど良い</p>	<p>大きさは冷蔵庫に貼るのにちょうど良い大きさで適していると思う。最初は行事を含んだカレンダーしか印刷していなかったため、会員から行事についての質問が多かったが、年度の途中でカレンダーを小さくし行事の内容を詳しく載せるようになったので改善できたと思う。限られたスペースの中で見やすくかつ沢山の情報を伝えるのは常に課題である。</p>
ニュースレター	<p>【内容】興味深い (特に興味深いとの回答が多かったもの)</p> <p>・広場利用者の声(アンケート集計結果)</p> <p>・新しい事業について</p> <p>【大きさ】ちょうど良い</p> <p>【発行回数】</p> <p>発行回数は少ないと答えた方</p>	<p>大きさはちょうど良いと考えている。内容についても新聞記事や広場利用者の声なども取り入れ、広場の良さを他の会員や賛助会員、また広く一般の人に伝えられて良かったと感じる。しかし、今年度の発行回数は現時点で春と冬の2回発行（年度中に更に1回発行予定）なので少なくとも春夏秋冬に1回ずつ発行するべきだと感じた。回数が少ない分トピックも厳選されてしまうので毎月発行するのが理想ではあるが印刷代と多くの方に送付するコストの問題があり、難しさを感じている。</p>

	もいた	
公式HPの公開	よく見る・たまに見ると答えた方が多いがほとんど見ない・知らないと答えた人もあった。	見ると答えた人の多くは特に意見交換ができる書き込み式掲示板や活動の写真を掲載したアルバムを良く利用している様子であった。利用者の声からも分かるようにやはり内容が変化している・更新されているトピックスを楽しみに繰り返しアクセスするというケースが多い。ホームページについては、こまめな更新に務めているが今後も「変化のあるホームページ」を大切にしていく必要があると感じる。
メールマガジンの発行	行事予定・警報時の臨時閉所のお知らせ・イベントの案内(全ての内容)が特に役立つという回答だった。	ほとんどの会員・ボランティアへ伝えたい簡単な情報を一斉送信できることはとても便利である。また、時間とコストがかからないということが最も魅力である。デメリットとしては、登録を希望していない人へ情報が伝わらないままになっていることである。

#### 6 全体の評価—プログラム実施の意義と課題

広場の活動をしていく上で、活動の内容をより多くの人に知ってもらう・理解してもらうという意味で広報というのはとても大事であると感じる。私たちの広場の場合、広報の目的には大きく分けて「①地域や全国の多くの人に活動の様子を伝え利用者や賛同者になってもらうため②現時点での会員・ボランティア・賛助会員に活動の様子や情報を伝えるため」が挙げられる。また、パンフレット・ニュースレターには必ず活動の方針(モットー)を掲載しておりミッションを伝え続けるという意味でも広報を利用している。

#### 印刷物についての問題点と今後の課題

・活動紹介のパンフレットとニュースレターのサイズが一緒・表紙の雰囲気似ているなどの理由で違いが分かりにくく受け取るほうも理解しにくいのでサイズや内容の工夫が必要であると感じた。また、両方とも誰に読んでもらいたいか(何を目的にした広報なのか)が少し曖昧だったように感じる。例えばパンフレットは「地域の方々への広場の宣伝のため」ニュースレターは「利用者・賛助会員・ボランティアのため」などターゲットを絞ることによってよりの確かな内容にできたかもしれない。今後これらの印刷物を発行する場合は広報の対象者・目的についてもっと吟味し、何のための広報なのかよく検討した上で内容の違いも出してはどうかと思った。

・活動紹介のパンフレットの場合、活動を知らない人知ってもらうという目的があるので、地域のより多くの人の手にとってもらう

ということも大事だと感じる。パンフレットの設置場所は現在、別表にあったように子育て支援センター・市役所・児童センター・小児科・産婦人科等に設置し配布しているが利用者の声を聞いた所、上記の他にも病院・スーパー・ショッピングセンター・マクドナルド・子どもの健診会場・子育てサークル・郵便局・公民館・大学・幼稚園保育所・銀行等を利用した配布が効果あるのではないかと意見を聞かれた。スタッフも以前この中で何度か設置の協力を試みた場所もあるが、実際にはショッピングセンターや銀行などの民間施設の協力はスムーズに行かない場合が多いのが現状である。特にNPO法人として広場を運営していることもあり、市（行政）が行っているものでないし会費などお金を取ることで宣伝していく…という理由で賛同、協力していただけないケースも多い。公共施設はまた、広場のスタッフ（4名）は常勤に近い形で広場のハード・ソフト面を担っているので、なかなか地域に向いていけないのが現状である。そこで今後は地域に根付いた活動をしている民生委員や子育てコーディネーターとの協力・連携などを大事にしながらボスインテグレーションや新たな協力団体を得ていくなど工夫をしていきたい。また、現在広場の存在自体を多くの方に知って頂くという意味で毎月善通寺市（行政）から発行される公報で時々紹介してもらえよう提案している。このように行政との協力また民間との協力を共に大切にしながらより効果的な方法にチャレンジしていきたいと思う。

・毎月の行事予定表については活動紹介パンフレットやニュースレターと比較して逆に「内輪向け」の傾向が強いのが現状であると感じる。基本的に広場のイベントへは非会員の親子でも参加できるようにしているがこの行事予定を見て興味を持ち広場に足を運んだという人がほとんどいないのが現状である。子どもの誕生日などが掲載されているなど、広場の親しみを感じるものではあるがこれも誰にターゲットを絞った広報なのかという視点で内容の変化が求められるかもしれない。

#### ITを利用した広報の問題点と今後の課題

・ホームページについては実施担当者の感想にもあったように「変化のあるホームページ作り」をこれからも大切にしながら決まったトピックだけが変わるのではなく全てのトピックが少しずつでも変化するように工夫していきたい。また、ホームページの存在自体を知らないと答えた人も多かったので、普段広場を利用される方や見学者への積極的な紹介が大切になってくると思う。

・メールマガジンの送付についてはどうしても顔を合わせてのコミュニケーションではなく一方的な情報配信なのでフォローができない（送りっぱなしになってしまう）難点がある。そこで広場から足が遠のいている会員などに対してはメールマガジンで一方的に情報発信するだけでなく、電話や一筆書いたお便りなどを利用した丁寧なフォローが必要だと感じる。



3. 相談を受けたとき

4. 家族の問題に遭遇したとき

5. その他、必要なこと

### Ⅲ 子育て支援者に必要なことを学ぶための研修についてお聞きします。

1. 必要と思われる、あるいは希望する研修内容について自由にお書きください。

2. 受講するとしたら、希望する形態等についてお書きください。

- |     |            |   |     |       |         |     |   |
|-----|------------|---|-----|-------|---------|-----|---|
| 2-1 | 形態         | ( | 講義型 | 参加型   | グループワーク | その他 | ) |
| 2-2 | 頻度         | ( | 年   | ヶ月に   |         | 回程度 | ) |
| 2-3 | 一回の時間      | ( | 半日  | 1日    | 1泊2日    | その他 | ) |
| 2-4 | 費用         | ( | 自費  | 職場の負担 | 公費負担    | その他 | ) |
| 2-5 | その他提案したいこと |   |     |       |         |     |   |

ご協力ありがとうございました。9月10日(金)までにご返送のほどお願いいたします。

送付・問合せ先 236-8501 横浜市金沢区六浦東 1-50-1 関東学院大学人間環境学部 人間発達学科  
電話・Fax 045-786-9842(演習室)

## 子育て支援者アンケート分析レポート

### 1. アンケート回答者の属性 (総サンプル数35)

#### 【事業形態】

- ① 集いの広場 (49%)
- ② 地域子育て支援センター (11%)
- ③ 子ども家庭支援センター (9%)
- ④ 子育てサロン (14%)
- ⑤ 児童館 (0%)
- ⑥ その他 (20%)

#### 【立場】

- ① 専任スタッフ (31%)
- ② 非常勤・ボランティアスタッフ (31%)
- ③ 施設長 (20%)
- ④ サポーター (0%)
- ⑤ その他 (17%)

#### 【資格】

- ① 保育士 (46%)
- ② 幼稚園教諭 (11%)
- ③ 保健師 (3%)
- ④ 看護師 (3%)
- ⑤ 栄養士 (6%)
- ⑥ 臨床心理士 (0%)
- ⑦ 社会福祉士 (0%)
- ⑧ その他 (31%)

※重複する場合…例①と②の場合は①にカウント

#### 【経験年数】

- ① 1年未満 (14%)
- ② 1年以上5年未満 (34%)
- ③ 5年以上10年未満 (34%)
- ④ 10年以上 (17%)

※ 保育園で行っている子育て支援事業の場合、事業が始まってからの期間を記入する例と、自己の保育士であった期間全体を記入する例とがあった。

### 2. 子どもの発達支援にあたって、支援者に必要と思われること。

#### 【結果】

4つカテゴリが見られた。

- ① 基礎的な知識  
(年齢別発達理解、発達理解、通常の発達の理解、年齢に応じた遊びとかかわり方の知識、基本的知識と経験、発達の理解障害の理解、遊びの実技、おもちゃ絵本の知識、発達の基

礎理解、発達の正しい知識、障害の知識、基本的発達段階の理解、発達の理解)

※ 特に「発達」と「障害」についての基本的理解を求めている。

- ② 支援者個人の経験  
(専門的知識よりも受容、知識と経験、専門的知識よりも経験、育児経験)

- ③ 支援者個人の特性・姿勢  
(子ども理解、気持ちの受けとめ、気持ちへの共感、受けとめ、遊びからの子ども理解、個に応じたかかわり、遊び中心、他と比較しない、子どもとの信頼関係構築、子どもを見る、目配り気配り安全優しい心、個人差の理解、遊び相手、経験を元に発達を見まもる、遊び心、温かい心、発達に見合った対応、自主性の尊重、個性受容、自由にのびのび)

- ④ 具体的な支援技術  
(最低限必要なこと日常生活の中で繰り返し身につけさせる、遊びの中での発達支援、個の状況の違いに応じたかかわり、第三者的客観的かかわり、過多にならない援助、発達に応じたかかわり、危険なことは理解にかかわらずはっきりとダメというがその後フォローする、必要な刺激を与える、親と共に褒める刺激、友達作り、発達に応じた遊びの提供、原因の見極め(先天性、親子関係)観察と現状認識、他機関とのネットワーク作り、対応の仕方、興味関心を広げる働きかけ、遊びを見まもり必要に応じて助言、発達の遅れの見極め、発達の見極め、発達にあった環境)

※③と④との境界は難しい。支援者個人の経験に基づくと読み取れるものを「個人の特性・姿勢」とし、基礎的知識に基づいて誰にでも適応可能な技術を「具体的な支援技術」とした。

### 3. 親とのかかわりにあたって支援者に必要と思われること

#### 【結果】

受容・共感・信頼関係というキーワードが多出。基礎的な知識よりも、支援者の姿勢・態度と具体的な技術とにカテゴライズされる内容が多い

#### ① 支援者の姿勢・態度

(ありのままの状態を受けとめる、カウンセリングマインド、プライバシーへの配慮、安心感と自信を与える、違う価値観を受け入れる、押しつけない、寄り添う、寄り添う姿勢、気持ちの受けとめ話を聞く、共に喜ぶ、共感、共感の姿勢、公平、子育ての楽しさしんどさの理解、自分の経験よりも相手の立場重視、主体的に解決できる援助、受容、受容する心の余裕、笑顔、信頼、信頼関係、親の心に寄り添う、親の立場に立った考え方、相手の立場に立った支援、聴く、意見を押しつけない、発達の個人差を認める、批判しない、表面的解釈ではない「保育指導」の理解)

#### ② 具体的な技術

(アドバイスよりも聞く、カウンセリング技法、グループワークの進め方、さりげなく聞く、ほめる、基本的に受容だが周囲との不調和が見られたらさりげなく教える、共感する技法、子どもへのかかわり方について自分から気付くようにし向ける、子育ての経験からの真実み、常識からずれていても受容、親の求めと必要な支援の見極め、親の性格によって対応を変える、専門家のネットワークへの引きわたし、相談を引き出す、他の専門家へ連携、地域の子育て情報、仲間づくり、答を導く、答を与えない、不安を和らげる声かけ、利用者同士の仲立ちとなる援助、良い所を見つける)

#### ③ その他

(ホッとできる環境、リラックスできる空間、気分を柔らかくする、子育て文化伝承の断絶、思考力判断力不足のまま自己選択で育って

しまったため口出しに苦慮する、専門的知識よりも経験、話しやすい雰囲気、話を聞く姿勢)

※①と②の境界も明確ではないが、「姿勢として一貫していること」と「技術的対応として変更可能なこと」とのニュアンスの違い

### 4. 相談を受けたときに支援者に必要と思われること

#### 【結果】

受容・共感的態度を基本に「相手の話を聴く」ことを重視している。その上で、対応可能な問題なのかを見極める技術と他の専門機関との連携が必要と捉えている。

#### ① 態度・姿勢

(解答を出さず聴く、気が済むまで聞く、共感、傾聴、結論よりも聴くこと、結論を出さない、自己選択させる、受けとめる、受容、受容と共感、十分に聴く、相談者自身の希望、聴く、聴く心、答を与えない、求めている本質の見極め、評価しない、話をしっかり聞く)

#### ② 技術

(カウンセリング技法、できることの見極め、わかる範囲で答える、解答できる範囲かの見極め、楽になれる方法をさぐる、経験を持ち出さず聴く、少しだけアドバイスする、心理学の知識、相手が自ら動き出す支援、他のスタッフの意見、知識よりも経験、聴く雰囲気、適切な情報提供、幅広い情報、聞くことで問題を自ら発見できるように、豊富な経験があるとそれなりに対応できる、望む解決法によって対応が違う、本人がどうしたいか、本当の問題は何か、面談のロールプレイ、励ましすぎない、話すことで多くが解決)

#### ③ 連携

(専門家とのネットワーク、専門家との連携、専門機関との連携、他機関との連携、他機関につなげる、日常的連携)



## 5. 家族の問題に遭遇したときに支援者に必要と思われること

### 【結果】

相談の場合と同じ傾向であるが、プライバシーと守秘義務について言及している。

#### ① 態度・姿勢

(その人自身が解決する必要そのための支援、感情移入しない、傾聴、守秘義務、受容、十分に聴く、人柄、家族の問題は立ち入らない、直接的なアドバイスはしない、聞くことで問題を自ら発見できるように、聞くだけ)

#### ② 技術

(かかわり過ぎない、コミュニケーションの取り方次第、プライバシーに立ち入らない聴き方、家族ごとに話を聞く、家族のことが子育てにつながっている、経験の範囲では自信がない、経済的な問題などその人の身になって、男性心理の知識、立場価値観の違いから解決は見つからなくても問題点を整理、老人心理の知識)

#### ③ 連携・ネットワーク

(ネットワークとして処理、関係機関へつなげる、虐待の疑いの場合専門家へ連絡、専門機関との連携、他機関との連携、多職種を設置、地域の情報を伝える、離婚DVの専門家と共に対応)

## 6. その他必要なこと

### 【結果】

① 支援者同士の問題に分類されることが多く見られた。(支援者同士の同一性のある対応、目指す広場像の確認、支援者同士の連携の在り方として記録・振り返りなど)

(サークル支援講座のハウツー、なれあいにならない、ネットワークシステム構築のための地域理解国の施策組織理解、ゆとりを持てるような体調管理、押しつけアドバイスをしない、開かれた園施設開放、学ぶ姿勢、学習する姿勢、基本理念の共通理解、記録する、健康、言葉の使い方、子どもの見方、子ども同士のかかわりから親同士の問題を解決する、支援と指導の混同をしない、支援者同士で共有、支援者同士のネットワーク、支援者同士の連携ルール、自己尊重トレーニング、

社会状況の把握、受容後当事者が自ら気付くように、心の読み取り、心を開く関係、親とのかかわり方講座のハウツー、正しい知識、他地域の情報、対応の在り方、当事者視点、独りよがりにならない、母親とのコミュニケーション、支援者間の方向性同一性のある対応、目指す広場像の再確認、来るもの拒まず去る者追わず、立場の理解と専門的知識、スーパーバイザーと振り返る)

## 7. 必要と思われる研修内容

### 【結果】

#### ① 基本的知識や技術に関するもの

(「うつ」理解、「子育ての社会状況」理解、「障害」理解、20歳代の母親の心理価値観、子育て支援の動向、障害について、ソーシャルワークの知識と技術、新しい遊びの技術、話を聞くためのワークショップ、カウンセリングの原理、カウンセリングの実際、カウンセリングマインド、カウンセリング講座、ソーシャルワークとしての子育て支援、タフな心バーンアウト防止の研修、ファシリテーション、支援者もともに育つ姿勢、メンタルの知識、子どもの接し方 支援者の役割資質、相談についての知識、相談援助技術、他機関との連携の仕方、対人援助技術、対人支援、地域の実情把握の仕方、乳児発達理解、発達過程、発達障害の学習、発達障害多胎児の場合の周囲とのバランスの取り方、保育内容、遊びの技術、幼児向け救急法、親になるための修練の場、親業訓練講座)

#### ② 事例研究に関するもの

(ケーススタディ、具体的ケースの話、事例による解決までのプロセス、事例研究、実践報告、出産前後のメンタルとサポートの事例、危険防止事例、各地域の実践報告)

#### ③ 支援事業のマネジメントに関するもの

(支援事業が先細りにならない秘訣、マネジメント、組織運営)

## 研究組織・構成員

研究代表者	伊志嶺美津子（関東学院大学教授）
研究分担者	櫃田紋子（浦和大学教授） 大豆生田啓友（関東学院大学専任講師）
研究協力者	新澤拓治（江東区大島子ども家庭支援センターみずべ地域ネットワーク主任） 藤井和枝（関東学院大学教授） 田島昌子（彰栄保育福祉専門学校講師） 依田幸子（江東区東陽子ども家庭支援センターみずべ センター長） 早川貴美子（江東区大島子ども家庭支援センターみずべ センター長） 佐川寛子（江東区東陽子ども家庭支援センターみずべ 子育て支援ワーカー） 相馬靖明（東京家政大学大学院 修士課程） 武藤陽子（NPO 法人冒険遊び場の会 代表理事） 奥山千鶴子（NPO 法人びーのびーの 理事長） 大豆生田千夏（NPO 法人びーのびーのスタッフ）
特別寄稿	渡辺顕一郎（四国学院大学教授）
資料提供	原田聖子 大庭みどり
翻訳	平野陽子・耕一 原田聖子
事務担当者	黒木由紀子

執筆担当箇所

I	○伊志嶺美津子	
II	○伊志嶺美津子 櫃田紋子 大豆生田啓友	
III	○大豆生田啓友 新澤拓治 依田幸子 早川貴美子 佐川寛子 武藤陽子 奥山千鶴子 渡辺顕一郎 田島昌子	(15年度執筆) 伊志嶺美津子 櫃田紋子 金山美和子 千葉勝恵 渡辺博昭 高橋智美 岡本彩湖
IV	○櫃田紋子 伊志嶺美津子 田島昌子 大豆生田啓友 相馬靖明 大豆生田千夏	
V	○伊志嶺美津子 藤井和枝	
VI	○伊志嶺美津子 櫃田紋子 大豆生田啓友	

プログラム実践・報告協力

NPO 法人びーのびーの

NPO 法人手をつなご

NPO 法人子育てネットくすくす

NPO 法人わははネット

NPO 法人子育て支援のNPO まめっこ

子育て支援グループちゃおNET (親子のひろば まんま)

江東区東陽子ども家庭支援センター みずべ

江東区大島子ども家庭支援センター みずべ